

令和3年度

教育委員会点検・評価報告書

令和4年9月

川越町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられています。

また、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

本報告書は、川越町教育委員会の会議及び活動状況の一覧を示すとともに、同法に基づき川越町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々の意見を付して取りまとめたものです。

今後も点検・評価の結果を事務改善に役立てながら、よりよい教育の実現を目指してまいりたいと考えますので、皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

目次

I	教育委員会の会議及び活動状況	
1	会議状況一覧	1
2	活動状況一覧	3
II	点検・評価の概要	
1	点検・評価の方法	4
2	自己評価の基準	4
3	学識経験者の知見の活用	4
III	令和3年度の点検と評価	
1	学校教育	5
2	社会教育	12
IV	学識経験者の知見の活用	
1	説明及び面談の実施	17
2	意見の要旨	17

I 教育委員会の会議及び活動状況

1 会議状況一覧

月日	場所	会議名	議案、報告等
4月14日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・学校教育ビジョンに基づいた学校運営について ・各校の近況報告
		教育委員会	○議案 第8号 川越町就学支援委員及び専門員の委嘱について 第9号 川越町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 第10号 令和3年度奨学金の貸与及び付与について 第11号 専決処分について
5月12日	川越南小学校	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告 ・新型コロナウイルス感染防止対策について
		教育委員会	○議案 第12号 令和3年度学校評議員の委嘱について 第13号 令和3年度学校関係者評価会議委員の委嘱について 第14号 社会教育委員の委嘱について ○協議 ・令和3年度 総合教育会議に向けて
6月11日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告
		教育委員会	○協議 ・令和2年度 教育委員会の点検と評価について ・教育委員研修について ○報告 ・令和3年度川越町奨学金の受給者と返還者について
7月14日	川越町 あいあいセンター	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告
		教育委員会	○議案 第15号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について ○協議 ・令和2年度 教育委員会の点検と評価について
8月18日	川越町役場	教育委員会・校園長会の合同会議	・各校園の1学期の反省と2学期に向けて
		教育委員会	○報告 ・教育委員の人事案件について
9月15日	川越中学校	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告

		教育委員会	○報告 ・社会教育委員会の議題について ・全国学力・学習状況調査の結果について ・オンライン学習について
10月19日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・教育委員の任命についての報告 ・各校の近況報告
		教育委員会	○報告 ・教育委員会教育長職務代理者の指名について
11月10日	川越北小学校	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告
		教育委員会	○議案 第16号 学区外就学の承諾について ○報告 ・川越町いじめ問題対策連絡協議会について ・社会教育委員会について
12月15日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の2学期の反省と3学期に向けて ・各校の近況報告
		教育委員会	○報告 ・川越中学校整備基本構想について ・学校給食センター調理業務委託業者の選定結果について
1月19日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告
		教育委員会	○請願 ・公立学校における「1年単位の変形労働時間制」の導入を行わないことを求める請願について ○報告 ・令和4年度の土曜授業について
2月9日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・各校園の今年度の反省と来年度に向けて ・各校・園の近況報告
		教育委員会	○協議 ・各校・園「学校自己評価」の結果と考察について ・防災行政無線メロディチャイムについて ○報告 ・川越町郷土資料館条例を廃止する条例の制定について
2月25日	川越町役場	教育委員会（臨時）	○議案 第1号 令和4年度教職員の人事異動について
3月17日	川越町役場	教育委員会・校長会の合同会議	・各校の近況報告
		教育委員会	○議案 第2号 川越町文化財調査委員会委員の委嘱について 第3号 川越町就学援助規則の一部改正について 第4号 学区外就学の承認について ○報告 ・令和4年度当初予算（教育委員会関連）について

2 活動状況一覧

月日	場 所	内 容
4月6日	川越南北小・川越中学校	入学式
4月7日	川越幼稚園	入園式
4月26日	オンライン会議	第1回 市町等教育長会議 「学校防災の取組について」「服務規律の確保について」 「学校における働き方改革の推進について」 「学力の向上について」 等
5月20日	三重県鈴鹿庁舎	令和3年度 北勢地域教育長会（春）（中止）
5月24日	川越町役場	川越町総合教育会議 「川越中学校の建替えについて」 「子ども議会について」
7月9日	オンライン会議	第2回 市町等教育長会議 「新型コロナウイルス感染症への対応について」 「学力の向上について」 「ICTを活用した学びの推進について」 等
10月23日	川越南北小学校	運動会
10月28日	オンライン会議	第3回 市町等教育長会議【北勢地域】 「新型コロナウイルス感染症への対応について」 「学力の向上について」 等
11月2日	三重県総合文化センター	令和3年度「三重の教育談義」 講演会 「今、求められるスクールリーダーとは」 （公財）日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクター 中竹 竜二さん
2月16日	オンライン会議	第4回 市町等教育長会議 「令和4年度当初予算（案）の概要について」 「公立小中学校の教職員配置と外部人材の活用について」 「コンプライアンスの推進について」 「学校における働き方改革に推進について」 「学力の向上について」 等
3月7日	川越中学校	卒業式
3月18日	川越南北小学校	卒業式
3月22日	川越幼稚園	卒園式

II 点検・評価の概要

1 点検・評価の方法

川越町教育基本方針の各目標達成のための主な取組内容を示し、これに対する成果指標及び実績に基づく自己評価を行います。

さらに、この自己評価を行うに当たっての現状と課題を明らかにし、今後の事務改善を図ります。

2 自己評価の基準

評 価		目 安
A	十分達成している	81～100%
B	ほぼ達成している	61～80%
C	十分達成できていない	41～60%
D	達成できていない	40%以下

3 学識経験者の知見の活用

教育委員会の点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の方々から教育委員会の取組内容、自己評価、現状と課題等について様々なご意見をいただきました。

今後の事務改善に活かしていきます。ありがとうございました。

<学識経験者>

川越高等学校 校長 山本 順三 さん

川越中学校 元PTA会長 川村 洋輝 さん

Ⅲ 令和3年度の点検と評価

1 学校教育

基本方針 豊かな心を土台とした社会で生きていく力の育成

幼稚園(幼児)教育		
<p>目標1 環境を通して行う総合的な保育の実施</p> <p>目標2 一人ひとりの幼児の特性に応じた保育の実施</p> <p>適切な環境を設定し、自発的な活動としての「遊び」を重ねる中で、幼児一人ひとりの特性に応じた保育を行うことで、個々の幼児の資質・能力を育みます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 親子交流、幼保・幼小交流等、人間関係を育む活動の実施 ○ 特別支援講師、生活支援員の配置 ○ 子ども家庭課、西日野にじ学園等と連携した発達支援の推進 ○ CLMの活用推進 ○ 外国語活動の充実のためのALTの配置 ○ 安全・安心な給食の提供と食育の実施 		
成果指標	実績	評価
「喜んで園に通っている」の肯定回答が90%以上	91%	C
「生活や活動の決まりや基本的な生活習慣が身についてきている」の肯定回答が90%以上	89%	
現状と課題		
<p>昨年度に比べると、若干ではあるが肯定回答が減少している。新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中で、子どもたち同士が積極的に関わったり、体験したりする活動に配慮が必要となるなど、今までと同じようにいかない状況が長く続いていることが、影響を与えているのではないかと思われる。感染拡大防止を図りながらできるよりよい方法を模索し、子どもたちの活動や体験する場を効果的に設定する必要がある。</p> <p>特別な支援が必要な子どもたちに対しては、特別支援教育スーパーバイザー、西日野にじ学園、子ども家庭課等と園が連携し、個々の特性に応じた適切な支援を行ってきた。今後も、支援技術のさらなる向上を図るため、継続して研修等を行っていく必要がある。</p>		

幼稚園（幼児）教育		
<p>目標3 安全・安心な園づくりと保育力の向上の推進</p> <p>目標4 家庭生活との連続性を踏まえた保育の実施</p> <p>安全・安心な園づくりや園経営の充実、教職員自身の資質・能力の向上などに努めながら、幼児だけでなく保護者にも寄り添い、共に幼児期の教育に取り組んでいきます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 警察や関係機関と連携した防災・防犯教室の実施の促進 ○ 園施設（危険箇所の修繕など）の改善 ○ 保育力の充実を図る園内研修の実施と就学前教育アドバイザーの配置 ○ 教育研究員制度を活用した教職員自主研修の推進・支援 ○ 中学校区教育懇談会による課題別の保幼小中連携協議 ○ 地域の教育力（地域教材・地域人材）の積極的活用の支援 ○ 広報紙、HP 掲載、メール発信等の機会を利用した園情報等の発信・周知 ○ 家庭・地域の教育力向上を図る PTA、地域団体等への出前講座などの実施 ○ 「生活習慣チェックシート」による規則正しい生活の定着促進 		
成果指標	実績	評価
「健康や心配事などについて気軽に相談できている」の肯定回答が 90%以上	92%	A
「保育参観や行事等で開かれた園づくりに努めている」の肯定回答が 90%以上	92%	
「行事や園便り、HP などを通して、保護者へ園の情報が発信されている」の肯定回答が 80%以上	92%	
現状と課題		
<p>実績の数値は昨年度より若干下がりはしたが、どの成果指標においても 90%を超える肯定回答であった。就学前教育アドバイザーの指導を継続的・定期的を受けてきたことや、園内研修の充実が教員の資質を向上し、保護者の安心感に繋がっていると考えます。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、保育参観や行事等を今までと同じような形では実施できなくなっている。しかし、感染防止に配慮しながらできる方法を検討し、実施してきたことが、高い肯定回答に繋がっていると思われる。</p> <p>今後も、よりよい方法を探りながら行事等を実施し、園便りやホームページ等も使って、積極的に子どもたちや園の様子を発信していく必要がある。</p>		

小 中 学 校 教 育		
目標 1 未来を切り拓く資質・能力の育成		
目標 1 – (1) 確かな学力と社会参画力の育成 学力の向上・定着・活用を推進していく中で、特別支援教育、グローバル教育及びキャリア教育をともに充実させていくことにより、確かな学力と社会参画に必要な力の育成を図っていきます。		
主 な 取 組 内 容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業力向上研修（授業公開）の実施 ○ 個に対応したきめ細かな授業のための基礎学力充実加配教員の配置 ○ CRT（学力到達度検査）の実施と分析、児童生徒へのフィードバック ○ 適切な指導・支援のための特別支援教育アドバイザーの配置 ○ 学習支援員、生活支援員、日本語指導員の配置 ○ 外国語教育の充実のための ALT の配置 ○ ICT 機器の充実及び積極的活用のための ICT 支援員の配置 		
成果指標	実績	評価
CRT の評定出現率が小学校（3段階）→ 2 以上、中学校（5段階）→ 3 以上が 80% 以上	87%	B
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、肯定回答が 80% 以上	79%	
「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」について、肯定回答が 80% 以上	83%	
現 状 と 課 題		
<p>CRT の評定出現率の実績が、昨年度同様成果指標を上回り、学力の底上げが継続して図られていることがわかる。子どもたち個々の課題を把握し、複数体制での指導や習熟度別指導等に積極的に取り組み、ていねいに知識・技能の定着をめざしてきた結果と考える。</p> <p>コロナ禍で、子どもたちが直接机を寄せて話し合う活動を取り入れることが難しい状況であった。新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」については、ICT 機器を存分に活用しながら、子どもたちが主体的に取り組みたくなる授業づくりをめざす必要がある。GIGA スクール構想により、一人 1 台のタブレット端末が整備された。向かい合って話し合う活動が難しい状況でも、タブレット端末や電子黒板を活用することで、友達との意見交換等が可能となっている。ICT を効果的に活用した授業の研修・研究を継続して進め、さらなる授業改善に努めたい。</p> <p>通級指導教室が開設されて 5 年目となり、通級指導教室で学ぶことの効果や指導方法について、かなり整理がされてきた。今後は、通級指導教室の増設や、自校通級の方法についても検討していきたい。</p>		

小 中 学 校 教 育		
目標 1 未来を切り拓く資質・能力の育成		
<p>目標 1 - (2) 豊かな情操といじめや差別を許さない力の育成</p> <p>教育活動全般を通じて、人権教育及び道徳教育を推進するとともに、文化芸術に係る体験や表現活動、読書活動を充実させていくことにより、豊かな情操といじめや差別を許さない力の育成を図っていきます。</p>		
主 な 取 組 内 容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育カリキュラムの点検とカリキュラムに基づいた人権教育の推進 ○ 道徳の授業の公開と公開時における指導主事による指導・助言 ○ 学級満足度（Q-U）調査の実施と分析を基にした児童生徒への対応 ○ 法教育推進事業の実施 ○ 自然教室の実施 ○ 学校図書館司書の配置と学校図書館図書標準（冊数）の維持 ○ 読書旅行事業の実施 ○ 特色ある教育活動・研究指定及び研究発表補助事業の実施 		
成果指標	実績	評価
「自分にはよいところがある」について肯定回答が 80%以上	75%	D
「人が困っているときは、進んで助けている」について肯定回答が 80%以上	93%	
「進んで読書に取り組んでいる」について、肯定回答が 70%以上	67%	
現 状 と 課 題		
<p>「自分にはよいところがある」についての肯定回答は、昨年度と同様の実績であったが、成果指標の目標値には達していない。また、「進んで読書に取り組んでいる」についての肯定回答は、昨年度より 3 ポイント下回る結果となった。</p> <p>令和 2・3 年度、中学校では県の人権教育研究指定校事業を受け、積極的に人権教育に取り組んできた。今後も、中学校区教育懇談会等も活用しながら小学校等と連携して人権教育の充実に努め、子どもたちの自尊感情や自己肯定感の向上を図りたい。</p> <p>読書活動については、今までも様々な取組等の工夫をしてきたが、今後も継続して学校図書館司書や各校の図書委員会、社会教育とも連携を図りながら、効果的な取組を探っていく。読書旅行に関しては、効果的な啓発方法を検討しながら、一人 1 台タブレット端末を使った読書履歴の活用などについて、新たに取り組んでいく。家庭読書「家読」については、社会教育と連携を図りながら、子どもたち及び保護者に向けて継続的に発信していく。</p>		

小 中 学 校 教 育		
目標 1 未来を切り拓く資質・能力の育成		
<p>目標 1 - (3) 基礎となる健康・体力と危機回避能力の育成</p> <p>運動習慣の確立や健康教育、食育を通じて体力・運動能力を向上させるとともに、防災・安全教育を充実させることにより危機管理能力の育成を図っていきます。</p>		
主 な 取 組 内 容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動ガイドラインに基づく安全で健康に留意した部活動の推進 ○ 部活動等、大会行事の参加に必要な経費の助成 ○ 養護教員部会と連携した、学校保健に関する学習会等の実施 ○ 安全・安心な給食の提供と食に関する授業の実施 ○ 「学校園における防災計画」に基づいた防災教育、防災訓練の実施 ○ 警察や関係機関と連携した「命を大切にする教室」の実施の促進 ○ 登下校におけるスクールサポート等の実施 ○ 校区安全マップの作成及び配付 ○ 町環境交通課と連携した取組 		
成果指標	実績	評価
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）」における総合判定C以上の割合が、70%以上	74%	B
「運動やスポーツをすることが好きですか」について、「好き」と回答した割合が、70%以上	86%	
「学校の帰り道で地震が起きたときの避難の仕方を知っている」について、肯定回答が100%	80%	
現 状 と 課 題		
<p>令和3年度は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が実施され、質問項目にある「運動やスポーツをすることが好きですか」について、「好き」と回答した割合が高く、成果指標を上回った。また、総合判定においても好結果が出ている。今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を万全にしながら、子どもたちが主体的に運動したいと思うことができるような授業や行事等を実施していきたい。</p> <p>「学校の帰り道で地震が起きたときの避難の仕方を知っている」について、肯定回答が、昨年度と比較して2ポイント向上はしているが、まだ十分とは言えない。引き続き、学校の防災教育と町の防災担当部署との連携を図りながら、子どもたち及び保護者等の防災意識の向上につながるような取組を進めていきたい。</p>		

小 中 学 校 教 育

目標 2 学校教育力の向上と教育環境の整備

学校マネジメント及びカリキュラムマネジメントを進めていく中で、教職員一人ひとりの資質・指導力の向上、異校種連携及び安全・安心な学校づくりを推進します。

一方で、教職員の多忙化解消に向け総勤務時間縮減の取り組みを促進していくことにより、子どもと向き合う時間のさらなる確保を図っていきます。

主 な 取 組 内 容

- カリキュラムマネジメントによる教育活動の質の向上
- 教育研究員制度を活用した教職員自主研修の推進
- 主体的・対話的で深い学びを充実させる、学力向上アドバイザーの配置
- 中学校区教育懇談会（保幼小中連携）による授業公開と課題別の連携協議
- 不登校支援員の配置
- いじめに関する実態調査の実施（学期に1回以上）
- 子どもと向き合う時間を確保するための教職員の業務改善支援
- 学校施設（危険箇所の修繕など）の改善

成果指標	実績	評価
「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定回答が90%以上	96%	D
「悩んだり、困ったりした時に先生たちに相談できている」の肯定回答が90%以上	85%	
月80h以上の時間外労働職員の減少（最終0人）	70人 42人増	

現 状 と 課 題

コロナ禍で、町教育委員会主催の教職員研修会は、オンライン形式で実施した。
学力向上アドバイザーや特別支援教育スーパーバイザー、北勢教育支援事務所及び町教育委員会の指導主事の指導・助言等を継続してきたことにより、教職員の資質向上が図られてきていると考える。

「悩んだり、困ったりした時に先生に相談できている」の肯定回答が、昨年度に比べて2ポイント上昇してはいるが、成果指標の目標値を達成できていない。児童生徒に信頼され、相談できる関係づくりについて、引き続き様々な取組を進めていく。

今年度の教職員の超過勤務については、昨年度と比べかなり増加という結果になってしまった。改善できるところから早急に改善し、働き方改革を進めたい。

小 中 学 校 教 育

目標 3 家庭・地域とともにある学校づくりの推進

家庭との連携はもとより地域に開かれた教育課程を推進していく中で、地域の方々の知識・経験・技能を活用した学習や体験活動を積極的に取り入れることなどにより、地域とのつながりを深め、地域ぐるみの子育てにつなげていきます。

主 な 取 組 内 容

- 地域の教育力（地域教材・地域人材）の積極的活用の支援
- 保護者・地域への防災・防犯等、安全意識向上の啓発
- 広報紙、HP 掲載、メール発信、イベント等の機会を利用した教育情報等の発信・周知
- 家庭・地域の教育力向上を図る PTA、地域団体等への出前講座などの実施
- 子ども家庭課と連携した保護者相談及び家庭支援
- 川越町ファミリー読書週間の取組の実施

成果指標	実績	評価
「学校公開や各種通信、HP などを通じて学校の情報が発信されている」の肯定回答が80%以上	92%	A
「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した割合が70%以上	79%	
「進んであいさつができる」「進んであいさつができ、ていねいな言葉づかいができる」について、肯定回答が80%以上	86%	

現 状 と 課 題

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、学校公開や授業参観の回数・規模など限定的な実施となってしまったが、「学校公開や各種通信、HP などを通じて学校の情報が発信されている」の肯定回答が、昨年度と比べて11ポイント上昇している。各学校からの各種通信やホームページでの情報発信を、今まで以上に積極的に活用してきた効果であると思われる。

以前から重点的に取組を進めてきている「進んであいさつができる」「進んであいさつができ、ていねいな言葉づかいができる」についての肯定回答が、昨年度と比べて4ポイント上昇し、取組の成果が表れてきていると考えられる。

この2年間、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域の方に学校の様子も見に来てもらったり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりといった活動は実施できていないが、今後も、学校・保護者・地域が連携して子どもたちを見守り、育てていく体制づくりの構築を図り、「地域とともにある学校」づくりを進めていく。

2 社会教育

基本方針 豊かな心を土台とした生涯現役力の育成支援

社会教育		
<p>目標 1 温もりのある家庭・地域づくりの推進</p> <p>すべての教育の出発点でもある家庭教育を支える地域づくりを推進するために、地域行事等への参加促進や「あいさつ・声かけ運動」（あいさつ+1）の拡充を図ります。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子ども 110 番の家」の周知啓発及び登録促進 ○ 非行防止補導活動の実施 ○ 成人式の実行委員による自主的な企画及び運営支援 ○ 「あいさつ・声かけ運動」（あいさつ+1）の周知啓発 ○ 地域の核となる団体との連携及び継続支援 		
成果指標	実績	評価
家庭教育講演会の「満足」以上の肯定回答が 80%以上	中止	B
「あいさつ・声かけ運動」（あいさつ+1）登録者数の増	微増	
少年非行概況による補導状況で、川越町が管轄となる交番の「深夜はいかい」の件数が 13 件以下	3 件	
現状と課題		
<p>新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、多くの事業を中止したが、共働き世代や核家族の増加に伴い、子育てに不安や孤立を感じる家庭が増えている。すべての教育の出発点である家庭教育力の向上のため、地域全体で家庭教育を支えられるような地域活動への支援を行っていく必要がある。</p> <p>人と人とのつながり、心と心をつながりを大切にし、地域コミュニティや青少年の育成を推進するため、平成 23 年より「あいさつ・声かけ運動」を実施。現在まで 1,062 名の方が登録をした。現場におけるあいさつは浸透してきているように思われるが、一つの指標である登録者数は、ここ数年は横ばいである。よって今後、更なる活動や新たな事業展開を行う必要がある。</p> <p>子ども 110 番の家の登録状況は、子どもの一時避難所として約 600 軒の看板設置協力を確保している。留守がちな家につけても意味がないとの意見もあるが、犯罪抑止になるという側面もある。今後も、設置趣旨をご理解いただきながら、普及拡大を図っていきたい。</p>		

社会教育		
<p>目標 2 人権を尊重する意識づくりの推進</p> <p>人権についての正しい理解と認識を深めてもらうため、学習会等を通して人権啓発を行い人権尊重の意識づくりを推進していきます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権・同和教育推進協議会役員会の開催 ○ 三重県人権・同和教育研究大会への参加 ○ 人権意識の周知啓発 ○ 小学生作成の人権ポスターの展示 		
成果指標	実績	評価
人権学習映画会参加者アンケートで満足度を問う設問で「よかった」との回答が 80%以上	95%	C
人権学習映画会参加者数の増（前回と開催方法変更のため比較対象なし）	—	
現状と課題		
<p>各地区で行う参加型人権学習会について、新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み中止した。代替事業として、あいあいホールにて「人権学習映画会」として、普段は参加の少ない若年層をターゲットに開催し、以前の学習会では少なかった親子連れの姿が多くみられた。</p> <p>来年度以降も、多世代が参加しやすい形態の学習会等の開催を検討していく。</p>		

社会教育		
<p>目標3 いつでもだれもが学べる生涯学習の推進</p> <p>学び始めるきっかけづくりや楽しく学べる環境づくりを通して生涯学習を推進するとともに、図書室の充実を図りながら、読書活動の普及啓発を推進していきます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもから高齢者までを対象とした各種の生涯学習講座を開設 ○ 子どもから高齢者までを対象とした家庭読書（家読：うちどく）の促進啓発 ○ 図書室の魅力向上のための機能充実 ○ 読み聞かせ・お話し会の開催 ○ 町内の子どもの読書環境を支える職員向けの研修会等の開催 		
成果指標	実績	評価
生涯学習講座受講者アンケートで「満足」以上の肯定回答が80%以上	88%	B
生涯学習講座の定員達成率が90%以上	86%	
図書貸出冊数の増加	増加	
現状と課題		
<p>人生100年時代を迎える中で、生涯学び続けることができる学習環境を提供していくことがより一層求められている。生涯学習講座受講者アンケートで「満足」以上の肯定回答が88%という結果をいただいたが、定員達成率は90%に届かなかった。町民一人ひとりが自ら進んで、かつ、気軽に取り組みやすい学習講座を企画していくことが必要である。</p> <p>図書室では、2か月間休館した令和2年度に比べ、1か月間休館した令和3年度は1日あたりの貸出冊数、利用者数ともに微増している。</p> <p>また例年、図書室行事として、大人向け朗読会、一般利用者向け講座、おはなし会などを開催していたが、令和3年度は感染拡大が収まらず集客が見込めないため、朗読会のみ実施した。中止した一般向けの講座の代わりとして、保育所等子どもの読書に関わる職員を対象とした読み聞かせ講座を開催した。</p> <p>生涯、進んで読書に親しむ町民を増やしていく取り組みを今後も続けていく必要がある。そのためには、引き続き各家庭において、読書に対する興味や関心が高まるような習慣づくりを、地域や学校等と連携・協力しながら検討していきたい。</p>		

社会教育		
<p>目標4 文化芸術活動の推進及び地域文化・郷土資料の保管、継承等</p> <p>文化芸術活動の参加者などを拡充させていくため、その成果を発表する場やふれあう機会を提供していきます。</p> <p>また、生まれ育った地域に誇りと愛着を持ち続けてもらい、地域文化・郷土資料を後世につなげていくため、その保管・継承に努めていきます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ あいあいホール自主事業の内容を企画委員会で検討 ○ 町指定無形民俗文化財映像ソフト及び文化財調査実績の活用 ○ 町内公共施設等において郷土資料の一部展示 		
成果指標	実績	評価
あいあいホール自主事業入場者アンケートで「満足」以上の肯定回答が80%以上	85%	A
小学校出張の実施（民俗資料貸出） （郷土学習の際の資料提供＜祭礼DVD貸し出し、ケーブルTV“わがまちヒストリー”への話題提供・出演＞）	実施	
現状と課題		
<p>町の文化芸術の拠点であるあいあいホールの自主事業は、幅広いジャンル、幅広い年齢層を対象に実施しており、コロナ下においても客席数を制限する等、感染症対策を講じたうえで、たくさんの方に文化や芸術に親しむ機会を提供した。また、新たなお客さまを開拓できるような事業を、企画委員会の中でより一層検討していく必要がある。</p> <p>郷土資料館の解体が完了し、所蔵している資料をいかに活用し、展示していくかの検討が必要である。町広報での資料紹介やケーブルTVを活用し、文化財に関する情報発信を継続していく必要がある。また、文化財については町民の関心を高めていくため、直接ふれることができる機会だけではなく、場所にこだわらないデジタル・アーカイブ、デジタル・ミュージアムといった公開方法も含めて検討していく必要がある。</p>		

社会教育		
<p>目標 5 生涯スポーツ活動の推進</p> <p>健康や仲間との交流などを目的としたスポーツから競技スポーツまで、幅広くスポーツ人口を拡充させていくために、運動機会の提供や競技力の向上を図る場づくりを推進していきます。</p>		
主な取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ○ ニュースポーツをはじめとした各種スポーツ教室等の開催 ○ 地域の核となるスポーツ団体との連携及び継続支援 ○ 総合運動施設等の維持管理と充実 		
成果指標	実績	評価
スポーツ教室参加者アンケートで「満足」以上の肯定回答が 80%以上	82%	A
スポーツ教室の定員達成率が 90%以上	100%	
総合運動施設の利用者数の増	増加	
現状と課題		
<p>大人数が参加する町民運動会及び町駅伝大会については、新型コロナウイルス感染症拡大を危惧し、昨年同様に開催を見送ったが、各種スポーツ教室においては、定員を 50%とするなど、感染症対策を徹底し実施した。</p> <p>運動施設については、昨年度同様に町民プールの営業を中止したが、トレーニングルームは利用制限を設け、感染症対策を徹底して再開したため、利用者数が増加した。</p> <p>互いにスポーツを楽しむことは、他者との協同や思いやりを育み、地域コミュニティの形成にも役立つこととなる。このスポーツの効用を拡充するため、地域におけるスポーツ活動の核となる各団体とも連携しながら、新たなスポーツメニューの提供やスポーツの場及び機会づくりを図り、スポーツ人口を拡大していく必要がある。</p>		

IV 学識経験者の知見の活用

1 説明及び面談の実施

教育委員会の点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会の取組内容、自己評価、現状と課題等について説明及び面談を次表のとおり実施しました。

月 日	場 所	内 容
6月22日	川越高等学校	教育委員会の取組内容、自己評価、現状と課題等について説明
6月27日	川越町役場	同上
6月30日	川越高等学校	面談の実施により意見を聴取
7月11日	川越町役場	同上

2 意見の要旨

上記の面談にて様々な意見をいただきました。その要旨は次のとおりとなりました。

今後の事務改善に活かしていきます。ありがとうございました。

学校教育	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園（幼児）教育の目標1・2など、成果指標に1ポイント届かなかったために、評価が下がっている項目があるが、成果指標と実績を踏まえると、一段階上の評価に相当するのではないか。自己評価の基準を再検討する必要があるかもしれない。・学校・園共に、各種便りやホームページ等で保護者に丁寧な情報発信を行ってきたことが、信頼や安心感に繋がっていると思う。学校や園での様子を保護者に積極的に提供することによって、家庭での話題づくりにもつながっている。教員の負担が過重にならないよう留意しながら、取組の継続をお願いしたい。・「自分にはよいところがある」についての肯定回答が、昨年度同様に成果指標に届かなかったことについては、子ども自身が「よいところ」のハードルを上げているのか、周囲の親や教員がハードルを上げているのか、いずれにしても大人が子どものよいところをもっとほめることが大切だと思う。ほめてもらった分だけ自尊感情や自己肯定感が育まれると思う。この結果を学校へフィードバックするだけでなく、家庭にもどう働きかけていくか検討し、例えば、PTA講演会などでうまく発信をして、質の良い情報を家庭に提供してもらいたい。
------	---

	<p>・「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の肯定回答が96%というのは、たいへん素晴らしいと思う。子どもたちから高い信頼を得られている証であり、教員には大きな自信をもっていただきたいし、敬意と感謝を表したいと思う。</p> <p>・「悩んだり、困ったりした時に先生に相談できている」の設問は、先生に限らず親や知人など、まわりの大人に相談できることが大切だと思う。また、担任だけでなく、養護教諭や用務員、支援員等、学校全体で相談できる体制にしてもらいたい。</p>
<p>社会教育</p>	<p>・「あいさつ・声かけ運動」の取組が、学校教育での「進んで挨拶ができる」とリンクしていると思われるので、学校教育と社会教育の連携した取組の成果である。また、「あいさつ+1」登録者への更なるアプローチが必要である。</p> <p>・コロナ禍での対応としての代替事業が功を奏した結果となり、素晴らしい取組だったと思う。これを機に今後の改善につなげていただきたい。</p> <p>・家庭読書促進の取組はたいへん素晴らしく、学校教育での取組とも連携されており、今後の成果として、子どもの学力向上や生涯学習の推進につながるものと確信している。</p> <p>・町の歴史と生活の推移を知ることで、郷土に対する理解を深め、郷土愛を育むことになると思う。</p> <p>・生涯スポーツ活動が着実に推進していることで、子どもたちの「運動やスポーツをすることが好き」の肯定回答につながっていると思う。コロナ禍により集団活動が難しいなかでも、新たなスポーツへの取組や家族単位での参加方法などの工夫により、大きな成果につながっている。</p>
<p>その他</p>	<p>・学校教育と社会教育がそれぞれ連携して取組を推進していることで、全世代にわたっての成果をあげていると思う。引き続き、学校と家庭、地域が連携した取組を進めていただきたい。</p>